



日本ラグビー界に刻んだ1勝...名将・宿沢広朗氏を偲ぶ大会、3度目に母校・熊谷高と群馬・高崎高が現役・OB戦

埼玉新聞社 によるストーリー・18 時間

おすすめゲーム

ファイナル ヤ 東京ヤクル... 対 神 阪神タイガ...



熊谷一高崎 現役メンバーによる試合の前半で、熊谷のナンバー8ルナ（中央下）が先制トライを奪う
© 埼玉新聞社

日本ラグビーの発展に貢献し、2006年に55歳の若さで亡くなった宿沢広朗氏＝埼玉県立熊谷高出＝を顕彰する「宿沢広朗杯」が2日、熊谷ラグビー場で開催された。

宿沢氏は熊谷高でラグビーを始め、早大では日本選手権2連覇を達成し日本代表にも選ばれた。38歳で日本代表の監督に就任し、1991年のワールドカップ（W杯）で日本初の歴史的1勝をもたらした名監督だった。

大会は熊谷市ラグビー協会が2019年に創設。3度目の開催となる今年は、熊谷高のOB会との共催で実施され、宿沢氏の妻・洋子さんと、長男孝太さんが招かれた。洋子さんは「感激の一言。毎年楽しみにしている」と観戦を楽しんだ。

宿沢氏は大学卒業後、住友銀行（現・三井住友銀行）に入社し、後に取締役専務執行役員を務めるなど銀行マンとしても活躍。熊谷高の横田典之監督は選手らに「リーダーシップがあり文武両道。君たちにはそのDNAがある。思いを受け継いでほしい」と話した。

この日は高崎高（群馬）を招き現役・OB戦を実施。宿沢氏の2学年先輩である根岸重年さん（74）ら両校のOBを含め200人以上が参加した。現役メンバーによる試合で3本のトライを決めた熊谷高のルナ仁鼓選手は「宿沢さんの努力は運を支配するという言葉は大きな存在。OBの方々のサポートもありがたかった」と大先輩がつないだ出会いに感謝した。